

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成21年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	専門教科および普通教科に対する興味関心をより高め、探究的姿勢を育てる。
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・平生の学習習慣が十分に確立されていないため、各課題や実習レポートなどの内容を未消化のまま提出してしまう生徒もいるのが、現状である。 ・比較的難易度の低い検定に関しては、高い確率(8割以上)で合格しているが、製図や情報技術など準備に時間を要する検定に関しては、各科によって合格率にばらつきがあるのが現状である。 ・普通教科に関しては、いかに意欲を持たせ、維持していくかということが課題である。
達成目標	各検定の合格率の向上 前年度比10%以上の合格を目指す。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・互見授業および生徒による授業評価を実施し授業の改善に努めるとともに、生徒に普段の授業を大切にすることの徹底を図る。 ・ジュニアマイスター制度への関心を高め、資格取得のための補習や実力養成講座などのさまざまな機会を通じて、自ら取り組む主体的な学習態度の育成を図る。 ・本校独自の「基礎学力テスト」(数学)のデータを生かし、関係教科での補完や補習を行い、基礎的な計算力の徹底を図る。 ・生徒が、より意欲的に取り組むような教材の精選に努める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成21年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -2-					
重点項目	学校生活				
重点課題	安定した生活習慣の形成				
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の遅刻の総数は全学年で502回であった。そのうち、寝坊や怠惰によるものは213回(一人当たり年間 0.36回)で、少しでも寝坊や怠惰などの理由で遅刻する生徒の減少を図り、より安定した生活習慣の形成を目指す必要がある。 ・昨年度は、登下校時の交通事故は9件であった。自転車による事故がほとんどで、交通ルールの徹底を図り、より安全な登下校を促すよう指導する必要がある。 				
達成目標	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; text-align: center;">寝坊や怠惰により遅刻する生徒の割合</td> <td style="width:50%; text-align: center;">登下校時の交通事故</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">一人当たり年間 0.3回以下</td> <td style="text-align: center;">年間9件以内</td> </tr> </table>	寝坊や怠惰により遅刻する生徒の割合	登下校時の交通事故	一人当たり年間 0.3回以下	年間9件以内
寝坊や怠惰により遅刻する生徒の割合	登下校時の交通事故				
一人当たり年間 0.3回以下	年間9件以内				
方 策	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」の継続実施。 ・遅刻ゼロ週間を設け、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・月3回以上の生徒に対し、面接指導や奉仕活動などを通して、改善を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 </td> <td style="width:50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。 ・警察者などから講師を招き、交通安全教室を実施、意識の高揚を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」の継続実施。 ・遅刻ゼロ週間を設け、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・月3回以上の生徒に対し、面接指導や奉仕活動などを通して、改善を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。 ・警察者などから講師を招き、交通安全教室を実施、意識の高揚を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・「あいさつ運動」の継続実施。 ・遅刻ゼロ週間を設け、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・月3回以上の生徒に対し、面接指導や奉仕活動などを通して、改善を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車点検を実施し、整備された自転車で安全に通学するよう指導する。 ・警察者などから講師を招き、交通安全教室を実施、意識の高揚を図る。 ・ポスターなどによる啓蒙活動の実施。 				

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成21年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -3-		
重点項目	進路支援	
重点課題	生徒各人が、学校生活を通じて、勤労観・職業観を身につけ、主体的に進路を選択できる力をはぐくむ。	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、1学年1月時点での進路未決定者(就職、進学の志望が決まらない生徒)は21.2%であった。 ・各方面の協力を得て実施した2学年の「インターンシップ」に関するアンケートの結果は、「進路を考える良い機会になった」と回答した生徒が約70%であった。 	
達成目標	1学年、進路未決定者(1月時点)	2学年、インターンシップの満足度
	10%以下	80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・1学年と協力し、キャリア教育関連の資料などを用いて、ホームルームの時間に進路意識・職業観の育成を図る。 ・企業から講師を招いて、現場の立場からの講演を実施し、職業観の育成を図る。 ・2学年と協力し、各学科教科の専門性を生かした実習先の確保と選定に努める。また、生徒たちが、専門科目の学習を通して、より積極的に選択できるように指導する。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

平成21年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -4-		
重点項目	学校生活	
重点課題	学校行事および部活動の充実	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会、尚美展、球技大会などの学校行事の満足度アンケートの結果は、概ね80%を超えている。ただ、代議員による生徒議会を通じて、生徒の意見を聴取して活動に反映させるなどの、積極的な取り組みは十分とはいえない現状にある。 ・部活動は、毎年、活発に行われているが、中途退部や自主性が低いなどの悩みを抱えている部も散見される。 	
達成目標	学校行事の満足度	部活動継続率
	主たる活動の生徒アンケートで80%	85%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事ごとに、アンケートの集約を行い、満足度をはかる。また、代議員を通じて、事前アンケートを実施し、生徒の意見集約に努め、活動および生徒議会の活性化を図る。 ・教職員の体制を常に検証して、連携の強化と協力体制の維持に努める。 ・各集会や生徒会便りを通じて、大会日程および成績の広報に努め、学校全体の雰囲気や生徒のやる気を高める。 ・各部の継続率を調べ、各顧問と連携を図りながら、部活動の活性化と充実に努める。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成21年度 高岡工芸高等学校アクションプラン -5-	
重点項目	PTA活動の活性化
重点課題	PTA行事への保護者の積極的な参加
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年の総会の参加者は30名程度、昨年の参加者は70名程度であった。 ・進路指導研修会、教養講座、自然探勝会などのPTA主催の各活動の参加者は、20名前後であった。ただ、10月開催の「尚美展」の模擬店などの行事への保護者の参加の様子から推察すると、上手に時期や時間を設定すると、参加者は増えると考えられる。
達成目標	PTA主催の各行事の参加者
	各行事で30名を超える。
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすい時期時間の設定をできるだけ考える。 ・広報活動に工夫を凝らし、参加しやすい雰囲気作りに努める。 ・活動ごとにアンケートを実施し、PTA通信で周知するとともに、次回、次年度の活動に生かす工夫をする。 ・役員相互のつながり連携を強化し、各取り組みの工夫と充実に努める。 ・教職員とPTA役員およびクラスの役員の連絡連携を密にし、参加を促すよう努める。

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)